

ふじさん

fujijoho group monthly magazine

～ 2025年指針 ～

開 点

富士情報

[今月のひとこと]

大阪・関西万博

- ・OJT 成果発表会を開催
- ・関係人口



よこびき橋から

写真提供：都留市 産業課



今月のひとこと

大阪・関西万博

社長 渡辺直企

4月13日に開幕した大阪・関西万博は10月13日に閉幕し、来場者数の累計が2,558万人となりました。入場者は9月下旬には連日20万人超が訪れ盛況に終わりました。

大阪・関西万博は2018年11月23日に、博覧会国際事務局の総会で大阪での開催が決定されました。コロナ禍でのオリンピック開催、オリンピックでの談合など、大きなイベントに対する否定的なイメージが広がっていました。その流れを受け、万博の開催に批判的な報道が多く報じられました。万博の開催が近づくにつれて建設費の高騰、工期の遅れなど多くの問題が露呈し、24年3月には工事中にメタンガスが爆発し、メタンガスに対する懸念、批判は開催まで続いていました。23年1月に朝日新聞が行った世論調査では、大阪・関西万博の開催に関して「賛成(45%)」と「反対(46%)」という結果でした。関東では賛成が36%と少なく、近畿地方で60%という結果でした。公式キャラクターのミャクミャクもなかなか個性的で、当初は多くの人が「気持ち悪い」と言っていたのも否定的な空気を後押ししていたように思います。私自身も関心はあまり高くなく、せっかくの機会なので一度は見てみたいくらいの感覚でした。

開幕当初は、長蛇の列、通信障害、運営の混乱で不満の声が多く聞かれましたが、運営が落ち着くと肯定的な評価が増え、三菱総合研究所が5月に実施した調査では全体の満足度が73%に達していました。「思ったより良い」など事前の低評価が逆に働き、当初10万人に満たなかった入場者はゴールデンウィーク頃から10万人を超えるようになり、5月下旬から15万人を超える日もみられるようになりました。

朝日新聞が万博に関するXのツイートを分析しています。開幕半年前からネガティブな投稿がポジティブな投稿を上回る傾向が続いていて、開幕一週目はポジティブな投稿は17.1%、ネガティブな投稿は53.4%でした。ゴールデンウィーク頃から徐々にポジティブな投稿が増え、7週目(5/25~31)に初めてポジティブな投稿の割合が上回っています。その後双方の投稿は20~30%台となり、閉幕直前の25週目(9/28~10/4)はネガティブな投稿が25.3%、ポジティブな投稿が27.1%となっていました。最終的にはポジティブな投稿が上回っていますが、盛況な割にはネガティブな投稿も依然多い印象です。

当初批判的な内容が多かった報道も、「手のひら返し」と言われるように、万博が黒字化される頃から好意的な報道が増えてきました。

終盤には「もっと続けて」といったような意見が多くなり、吉村大阪府知事は「開幕前はメディア批判のオンパレードだったので、最終盤、このようなご意見を頂けるのは本音で嬉しいです。ただ、万博は国際条約で6カ月と決まっており、難しいです。申し訳ないです」と投稿しています。

当初不評だったミャクミャクも、最終的には大人気となりました。大阪府・市の万博推進局の担当者は「当時は、ここまで人気になるとは想像できなかった」と驚いていました。嵯峨美術大学安齋准教授は「これだけ大きなイベントでこんな変わったキャラで出てきたのは僕生まれて初めて見ました。」と言い、キャラクターのルネッサンスと評しています。

夢洲のような埋立地にはメタンガスが発生します。一般的にガス抜き管や強制排気する設備などを設置することで対応が可能です。この件に関して批判を繰り返していた国会議員、市議会議員などは政治的なアピールの色合いが強いと思います。未実施の計画に関しては不明確な要素も多く批判することは容易ですが、本来の目的を理解したうえで前向きに解決する姿勢が大切だと考えています。